



ほくたちが まつりの主役



9月13日、リハーサルを兼ねた衣装合わせ。桃太郎のかつら合わせからはおりまでいねいにセットが行われました。

—間瀬子供会の「二人桃太郎」芝居—

9月15日は、間瀬・八幡神社の秋祭り。この祭りに花を添えたのが間瀬子供会（本間美樹会長・会員54人）のみなさんの手による「桃太郎」の寸劇興業。地区の若者がかつぐみこしに、婦人会の民謡流し、そんな祭りの中で、ひときわ地区の人たちの目を楽しませてくれたからです。出し物の桃太郎は子供たち自身で話し合いで決めたもので、芝居に使う衣装や大道具は子供会育成会のお父さんたちが担当。祭りの始まる1週間前から、夜集まっては、竹を組んでメインになる桃を作ったり、きじやさる、犬などのお面づくりをしました。時には夜中までかかることもあり、子供屋台の組み立てや準備は一切育成会が汗だくで行ったもの。本番前の先月13日には、なんとリハーサルや衣装合わせも行われ、本格的。「子供たちが全員でやろうと決めたので、わたしたちはただ側面からお手伝いをただけです。それに秋祭りといっても、いまでは住民祭的要素が強くなっていますから、わたしたちもふるさとづくりや地域のコミュニケーションに役立てば、やりがいもありますね」と、育成会会長の村田重人さん。本番の15日は、最高の祭り日和になり、子供会自主運営の手づくり祭りは大盛況。見てもやっても楽しい「子供たちが主役」の秋祭りでした。



「桃太郎」芝居三幕を終わって、全員でごあいさつ。「ご祝儀忘れないでね」のアナウンスもタイミングがいい。



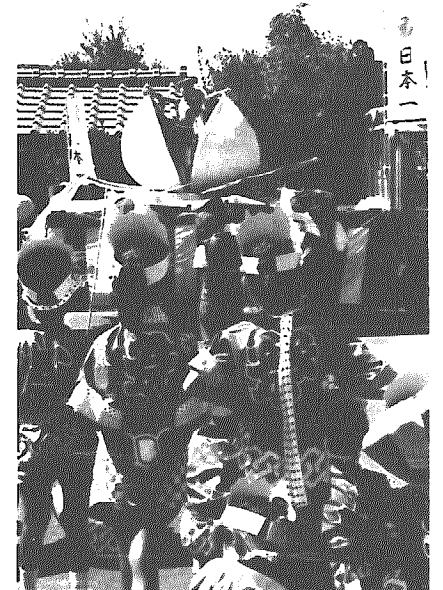
祭りの始まる1週間前から連日連夜、子供会育成会のお父さんたちは道具作りに大忙し…。ひと仕事終わった後のビールがうまくてね、と本心もチラリ。



日本一ののぼりも鮮やかな子供会・おもしろ行動隊。祭りはやはり子供たちが一番似合いますね。



間瀬おとな会が担ぐみこし行列が先導—神事もいまは住民祭的色彩が強くなりましたね。



祭り半天もあざやかな子供たち、自分たちで考え、作った芝居に感激のひとつとき？